

肌が眠りから目覚めるとき、 春に備えるスキンケア

季節の変わり目「節分」。もともと大阪の風習であった「恵方巻」が今や全国に広がっています。女性から男性にチョコレートを贈るバレンタインデーの風習は日本独特なもの。メリーチョコレート社が伊勢丹でイベント販売をしたのがきっかけと言われていています。イベント好きな日本人・・・今後も、いろいろな風習が生まれそうです。まだまだ寒い日々が続きますが、木々は芽吹きはじめ、動物も植物も冬の眠りから目覚め、春を迎える準備の季節。お肌も春に備えるスキンケアが必要です。



Le Ciel de Laube
— ルシエルドローブ —

「水」を究め、「水」にこだわり、「水」を究極の天然成分と位置づける。体液に近い水「浸透圧水」づくりから生まれたサロ仕様のスキンケアブランド。浸透力が生み出す肌変化を実感してください。

乾燥のピークに花粉ストレスが襲う2月

年間最低気温

年間最低の肌油分

年間最低湿度

年間最低の肌水分

寒暖差ストレス

花粉ストレス

2月は、日本全国各地で年間の最低気温・最低湿度を記録します。一方、日々や一日の中での寒暖差も大きいのが2月の気候の特長です。肌自体からの皮脂分泌量は最少水準となり、水分蒸散量は最高水準となります。つまり、外気も肌自体も超乾燥状態へ、乾燥レベルは警報状態にあります。更に、追い打ちをかけるように花粉が襲いかかります。

(超乾燥+少ない皮脂)によりお肌の抵抗力が低下 ⇒刺激に弱い状態の肌に花粉が襲う！

日本気象協会が発表している2017年花粉飛来予測では、今年は関東以北が少なめで、北陸・東海～西日本が多いとされています。花粉症ではない人にとっても、花粉は肌ストレスの原因の一つになりますので要注意です。

くしゃみ・鼻水・目のかゆみ

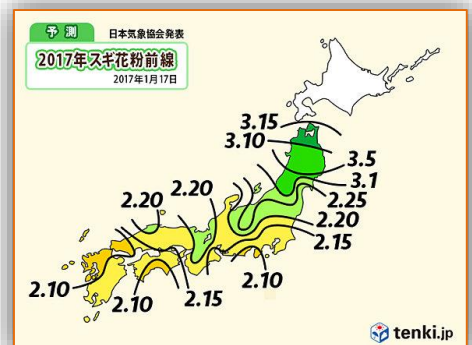
症状そのものが体にとってはストレスそのもの。結果として肌の変調を生み出すきっかけとなってしまいます。特に目のかゆみで目もとをこすったりするのは絶対NG！超乾燥状態で弱っている肌を痛めてしまいます。格好悪いですが、マスク+花粉防止メガネで、カラダに入り込む花粉の量を抑えましょう。

薬の副作用

花粉症を抑える鼻炎薬にも副作用があります。花粉症薬への配合が多い抗ヒスタミン剤は、眠気・渇き・食欲増進などの副作用が認められ、肌の変調につながることもあります。薬により渇き対策として保湿強化を忘れずに！

花粉そのものの刺激

典型的な花粉症症状がなくても花粉そのものは肌への刺激物質です。最近では、くしゃみなどの症状ではなく、花粉による肌刺激から肌荒れを発症する「花粉皮膚炎」も報告されています。外出から帰宅したら、家に入る前に、衣服や髪に付着している花粉を払い落とすようにしましょう。また、この時期は、外に干した洗濯物を取り込む際も、衣類から花粉を振り落とすようにしてから取り込んでください。



北海道	シラカバ	少ない (50%)
東北	スギ ヒノキ	少ない (50%)
関東 甲信	スギ ヒノキ	やや少ない (70%)
北陸	スギ ヒノキ	やや多い (140%)
東海	スギ ヒノキ	多い (160%)
近畿	スギ ヒノキ	非常に多い (360%)
中国	スギ ヒノキ	多い (170%)
四国	スギ ヒノキ	非常に多い (260%)
九州	スギ ヒノキ	非常に多い (270%)

肌も目覚め、生き生きさせたい春。
その前に、乾燥・花粉に負けない肌を！

朝の忙しい外出前のスキンケアを簡単にすませていませんか？
秋～冬へと取り組んできた保湿を一層強化しましょう。潤いは、肌の健やかな新陳代謝の栄養素とも言えます。乾燥に加え、外出後は寒暖差ストレス・花粉ストレスに襲われます。外出前のスキンケアの仕上げは、しっかり保湿+UVケアで、お肌に保護膜をつくってあげてください。

乾燥が進行しているパーツケアにも取り組みましょう！
特に、皮膚が薄く皮脂線・汗腺の殆どない目もとケア強化月間です。乾燥・花粉に負けない目もとケアをはじめ、フェイスマスクを加えたスペシャルケアをオススメします。オーロラ フェイス マスクの美容液は肘・カカトケアにも最高！とのご愛用者の裏ワザも是非試してみてください。

パーツケア向け美顔器EMB6000をシートの上からクルクル！オススメですよ！

保湿+UVケアでお肌を保護する！



エマルジョン ジェル



ロイヤル リッチ クリーム



UVヴェール

乾燥が進行しているパーツケアも強化！



オーロラ
フェイス マスク



ビューティーアイズ
エッセンス シート



美顔器
EMB6000

スキンケア講座

肌にまつわるトピックスを、毎月テーマを決めて紹介してゆきます。

今月のテーマ

シミの原因と対策 その2 ～シミには種類がある～

一口にシミと言ってもさまざまな種類があります。シミの種類に応じてその対策も異なります。代表的なシミの種類とその対策について説明します。

[そばかす]

遺伝による先天性のものが多く、幼少期に発生したソバカスは成長とともに薄くなる傾向がある一方、紫外線の影響で濃くなることがあるので濃くなることを防ぐ紫外線対策が必要です。加齢が原因の場合は改善させることは難しくなります。

[肝斑]

30～40代の女性に多くみられる、左右対称に現れる薄い褐色のもやとしたシミです。女性ホルモンの乱れが影響すると言われています。皮膚科専門医の治療方針に従い、日常では、紫外線や刺激で悪化しやすく、紫外線対策に加え、肌負担の少ないスキンケアが必要です。

[加齢性色素斑]

加齢に伴うお肌の新陳代謝の衰えて、古くなったメラニン色素が排出されず沈着してしまう状態。紫外線対策をもちろんのこと、潤いをしっかり与え角質代謝を促すスキンケアが重要です。

[炎症後色素沈着]

ニキビや吹き出物の炎症後や、過度のスキンケアによる刺激による色素沈着。加齢性色素斑同様に、紫外線対策に加え、保湿強化と角質代謝を促すスキンケアが重要です。

そばかす・肝斑は、化粧品で治すことは難しく、スキンケアとしては悪化させない紫外線対策が求められます。まずは、シミを発生原因からお肌を守るライフスタイルを心がけましょう。大切なのは年間を通じて紫外線対策を怠らず、肌に潤いをしっかり与えて角質代謝を健やかに保つこと。



2月の独特な肌環境。春に備えるスキンケアのアイデアをお届けしました！

季節に応じたスキンケアで素肌美人へ！

次号：Vol.21 2017 March
キーワードは
“くすみ対策は万全ですか？”